

戸隠山略縁起

近世後期の田舎版。奥書等なし。西尾市岩瀬文庫蔵本を用いるが、外題が同名のものが長野市立博物館佐々木コレクションや長野県立図書館にあるが別のもの。

岩瀬文庫古典籍書誌データベースに、旧目録、「縁起類聚」として一括する9冊のうちの第8冊の1（『戸隠山略縁起』略縁起并古跡由来』『河内国誉田八幡宮略縁起』『長谷寺縁起』『三河国八橋略縁起』『御ものいみ由来略』『大杉殿縁記』『三河国八橋略縁記』を合冊、覆表紙を付す）。共紙表紙本。丁数は原表紙を含む。第6～8冊は小寺玉晁の収集本。覆表紙後表紙左肩に「扶氏経験遺訓一」の原題簽貼付、とある。

抑お信も濃の國の戸と隠く山にハと天と地と再と興とのそ祖の神の日の月の出の生の威の神と号し
て三の神の鎮を坐すなりの灵を嶽を靈を崇を神の道の本の社なり其の第一神ハ奥の院天
手の力の雄の命の御の本の地の聖の觀を世の音の大の權を現の第二神ハ中の院御宮天思の兼の
命の左の右の二の神の御の父の神也御の本の地の釋の伽の文の大の權を現の第三神ハ宝の光の院御
御の社の天の表の春の命の御の本の地の將の軍の地の藏の大の權を現の別の社ハ九の頭の龍の大の權を現の御の

べんざいてんりやうかいこんたい

こんごう

ゑ

まんだら

だうじやう

ごう

本地弁才天両界金胎の大日如来金剛九會の曼多羅道場と号

たかつまさんべつたかみむすびの

むりやうじゆぶつ

おとつま

てんせう

す高妻山別高星靈命無量寿佛を御本地とす乙妻山天照太神

こうれい

まんこうぞうほさつ

おもてうら

たけ

しよ

降靈の地にして満虚藏菩薩也其外表裏の嶽に九十九ヶ所の

いはや

そんぞう

りやくつくし かつし わうこ

そさのをのみこと

御磐室一々の尊像如々の利益難_レ盡往古天照太神素盞烏尊

はなはゞ

いきじふり

たかまのはらあま

いはや

いり

とぢこもり たまふ

を甚しく憤_レたまひ高天原天の磐屋に入いは戸を閉籠給

ゆへ

よ なかとこやみ

なり

ちうや

わかち

まんようおこり

や をよろづの

故に世の中常闇と成て昼夜の分なく萬妖起ければ八百萬

かみたちこれ

ふか

なげ

たま

あまのやすかはのほとり

かみあつめ

あつま

かみばかり

神達はを深く歎き給ひ天安河邊_ニ神集に集りたまひ神議に

はかり

おもひかねの

しんち

ゑまん

とほくろぞふきちか

まわ

あま

議たまへハ思兼命深智恵満の神にして遠嘘近く囀し天津

たかまの

にはび

たき

みたま

みかゞみ

かけ

じやうや

なかなき

高天原におゐて庭火を焼天御玉天御鏡を掛て常夜の長鳴の

とり

よあけ

とき

つげ

あまつ

こやねのみこと

ふとたま

うすめの

鶏をあつめ夜明の時を告させ天津児屋根命天太玉命天鈿女

うたひまひ

ゆゝ

しくおほしめしいはと

すこ

ひきあけ

らん

命等謡舞給ハ大神宮由々舗思召磐戸を少し引明御覽しける

あきらか

にんめんみ

時に世の中明に人面見へけれハアラおもしろやの神の御声

とも

なげ

おちといま

と共に手力雄命磐戸を取て投たまへは落止つて一ツの山と

すなはち

これ

じゆんくわん

たかへ

なり則戸隱山是也夫より日月巡環の時を違す天照太神伊

わたらゑ

あんざましま

ちんざましま

ふ

そつと

こくふ

勢渡會に安座在す三神ハ此山に鎮坐在して普天卒土五秣豊

ねうしのうこうしやう

いたる

たいず

まこと

みとく

饒士農工商に至まで不絶事誠に以て戸隱山大権現の威徳な

くずりう

ぼさつ

れいじや

り九頭龍大権現ハ内_ニハ菩薩の行をあらハし外にハ靈蛇の形

けん

みろく

？

ゑ

ゑ

あかつき

いた

ちうようひんきゆう

ほら

ちやう

を現し弥勒_？會上竜會の三會の暁に至て中妖貧窮を拂ひ長

じゆこうふく あたへこくか きなん すくはん ちかひしことにんじゆ さい わうご
壽厚福を授國家危難を救と誓亘人壽二万歳の往古より當
山の地主ハ靈神にして磐戸を永く守護し普の群類を濟度し
たまふ生神の尊像三國無双の灵神也毎夜寅の刻御供を獻に
一粒も不殘彼岩窟へ梨子を備に骸實も不殘被召上因之
信心の願主御膳を獻に配膳配供に其旨願を知しめたまへ當
山吉凶百籤の弘通根元たる夏爰に畧すしかるに太々神樂獻
奏の祖神當山の神意なれハ神代の例を引て現に神慮を垂せ
しめ神徳を奉仰事第一也とく あかき たてまつる 亘

註 日本古典籍総合目録データベースに、岩瀬文庫の
「縁起類聚」の内のひとつとして画像がある。「縁
起類聚」は二種あるが「混九冊」の方。請求番号214
I 326 I 1 I C S 250 コマから253 コマ。

DOI 10.20730/100176082